

首都大学東京 大学院
ビジネススクール
経営学プログラム
修士（経営学）

MBA Program

MBA Program Director



首都大学東京大学院
経営学研究科 教授
経営学プログラム (MBA)
プログラムディレクター

長瀬 勝彦

近年の世界経済は複雑さの度合いがますます高まっており、企業や公共部門のマネジメントを担う人材にはこれまで以上に高度な知識と深く広い思考が求められています。そのような人材の養成には大学の学部レベルの経営学教育よりも一段と高いレベルの教育が必要となります。2003年に本学（当時は東京都立大学）大学院に社会人を主対象とした高度専門職業人養成プログラムが設置されたのはそのような時代の要請に応えるためでした。以来15年以上にわたって、本プログラムはビジネス環境を分析し経営戦略を立案する能力、組織や制度を設計し変革する能力、そしてビジョンと高い志を兼ね備えて果敢な意思決定ができるビジネスパーソンを養成してきました。2016年には新設の丸の内サテライトキャンパスに移転を果たし、2018年には名称を経営学プログラムに変更するなど改革をとげながら発展して現在に至っています。

本プログラムの大きな特徴は、第一線の研究者でもある専任教員を中心にした高度な少人数教育にあります。単なるノウハウを教えるのではなく、最先端の研究成果をも踏まえたマネジメントの本質に迫る授業が数多く提供されています。修士論文もしくは課題研究論文の提出が必須であることも特徴のひとつです。学位論文の執筆は並大抵のことではありませんが、本人の努力と教員の密度の高い指導により、これまでに多くの方が優れた論文を完成させています。

丸の内サテライトキャンパスは最新の設備を擁しており、優れた教育・研究環境が提供されています。立地的にも各駅から近く通学至便となっております。また経営学研究科は経営学プログラム(MBA)に加えてファイナンスプログラム(MF)と経済学プログラム(MEc)の三本立てとなっており、他プログラムの科目も幅広く履修が可能です。2年間の研鑽の末にMBAを取得されて更に高く羽ばたかれることを期待しております。

Mission

ミッション

経営学プログラム（MBA）は、産業の活性化を通じて首都東京と我が国に活力を与えていきます。そのために、科学的な思考能力を基礎とした戦略的な構想のもとで、新たな組織や制度を構築し、また既存の組織や制度を変革しうるビジネスリーダーや、学術的な課題を自ら設定して研究を遂行できる能力を持った研究者の養成を目指します。

Characteristics

特徴

高度な学び — 5つの教育研究プロジェクト —

「経営戦略」「マーケティング」「経営組織・HRM・意思決定」「会計学」「マネジメント・サイエンス」の5つの教育研究プロジェクトがあり高度で徹底的な教育がおこなわれています。

徹底した少人数教育

充実した専任教員体制により、講義や演習科目を提供し、丁寧な指導で修士論文等の完成に導きます。文系・理系を問わず多様な人材を受け入れます。

公立MBAとしての強み — 働きながら学べる —

東京駅至近のキャンパスで平日の夜間と土曜日を中心に学べます。都民の方は入学金が半額となります。

高度で多彩な教育プログラム

公立大学ならではの公共経営アクションリサーチ、経営者とディスカッションできるビジネスイノベーション特別演習など多彩なプログラムで実践的な学習が可能です。



— 講義風景 —



— 学生談話室 —



— 共有ラウンジでの自習風景 —

Projects

教育研究プロジェクト一覧

■ 出願時に選択した教育研究プロジェクトを中心として、修士論文や課題研究論文の指導が行われます。

■ 1年次には、所属する教育研究プロジェクトの担当教員の演習を受講して、理論的な研究とともに研究の方法論などを学びます。

■ 2年次に、教育研究プロジェクト担当教員から指導教員が決定され、当該教員を中心とした指導体制のもとで論文作成に取り組みます。

1. 経営戦略（竹田・松田・松尾）

戦略プランニングの目的は、不確実性の高い事業環境において、企業目標となる価値を創造し、価値を獲得するための長期的な時間展開となる道筋を提示することにあります。戦略が実効性を高めるためには、なぜそのような戦略を選択するのか、企業組織に提示することによって組織メンバーを説得し、コントロールできるだけの戦略の「論理性」が必要です。経営戦略プロジェクトでは、企業の経営資源や組織能力と持続的競争優位の関係性、或いは市場との関係性に焦点をあてて、企業ケースやこれまでの学問的研究を広く展望して、企業の戦略行動についての実証的分析や理論的考察を行うことで、プロジェクトメンバーの「論理性」を養成します。

2. マーケティング（水越・森・中山）

顧客を中心とした企業活動を行うためには、マーケティングの思想と科学的なリサーチメソッドが必要になります。このプロジェクトでは、マーケティング論を中心とした研究業績を基礎にしながら、同時に最先端のマーケティング・サイエンスやリサーチメソッドを学ぶことを通じて、顧客との長期的な関係を構築し、新たな価値を創造していく論理の理解を深めます。論文指導では、各自の問題意識に応じて、これまでの研究蓄積を踏まえた新しい論理やマーケティングの可能性を明らかにすべく、分厚い事例研究や精緻な実証研究を進めていきます。

3. 経営組織・HRM・意思決定（桑田・高尾・長瀬・高橋・西村）

組織と人に関わる諸問題への学術的なアプローチを体系的に学びます。組織における個人・集団及びその行動を分析対象とする組織行動論、組織能力の構築につながる人材の活用・育成・評価などを検討する人的資源管理論（HRM）、人間の現実の意思決定のありようを心理実験などから明らかにする行動意思決定論が主たるバックボーンになります。さらにそれらを基盤として、自らの問題意識にしたがって研究を進めます。論文執筆では、現在の経営環境で直面する組織やそれにかかわる人の具体的な問題について、また人間一般の心理の本質について、実証的分析や理論的考察を行います。

4. 会計学（浅野・野口・細海）

会計学プロジェクトでは、企業外部の関係者を情報提供のターゲットとした財務会計領域と、経営者などの内部者をターゲットとした管理会計領域、双方の研究プロジェクトを推進しています。財務会計領域では、主として、(1) 企業会計制度の特質と限界を社会経済的コンテクストに照らして分析するとともに、(2) 会計情報と企業価値の関係ならびに会計情報の資本市場における機能について実証的に分析することを課題としています。また、管理会計領域では、(3) 無形資産と企業価値の関係及びそのマネジメントについて研究を行っています。

5. マネジメント・サイエンス（室田・山下・芝田・森口）

マネジメント・サイエンスは、経営活動に合理的な意思決定を持ち込もうとする科学的方法の学問です。複雑な現実の本質を見抜き、それをモデル化し、数学やコンピュータを利用して解析し、最適な解を導出したり、システムの特徴を浮き彫りにしたりして、現実に立ち向かう人々に有益な提言をするものです。このプロジェクトでは、(1) 種々の制約のもとで最適化を行う数理計画問題、(2) 不確実性を含むシステムの扱い、特に確率モデルの解析やシミュレーションによる解析、(3) 生産・物流・情報システムを核とした経営システムの革新、経営活動の効率化、などの研究を行っています。

Faculty Member

専任教員一覧 (2018年4月現在)

教員氏名	主な講義科目	研究教育内容
教授 浅野 敬志	経営分析	研究テーマは会計・統合報告と資本市場です。IFRS（国際財務報告基準）、企業開示制度改革、ガバナンス改革の効果・影響を、主に資本市場の視点から研究しています。
教授 桑田 耕太郎	経営学	経営戦略と組織のダイナミック・インタラクションや組織変革の研究を行っています。
教授 芝田 隆志	企業経済学	専門分野はコーポレートファイナンスです。特に、オプション理論を用いた投資プロジェクト評価モデル、企業の負債評価モデル、などを中心に研究を行っています。
教授 高尾 義明	経営組織 組織行動	組織の境界設定という切り口から、組織と個人の関係(自発性のマネジメント)および組織間関係(技術革新を産出するビジネス・エコシステムの形成)を研究しています。
教授 竹田 陽子	経営戦略	情報を表現し、コミュニケーションを促す技術を活用して、いかにしてイノベーションを創出する組織を醸成し、経営戦略を実現するかを研究します。
教授 長瀬 勝彦	意思決定	行動意思決定論に立脚し、人間の意思決定プロセスや意思決定バイアスを研究します。広く経営心理学の領域もカバーします。授業では論理的思考を重視します。
教授 野口 昌良	財務会計	日本の会計制度の特質とそれを制約する基礎的諸条件を歴史分析の手法を用いて析出することを目標としています。
教授 細海 昌一郎	管理会計	現在、知的資本と企業業績・企業価値との関係、知的資本相互間の関係などについて実証的な研究を行っています。また、意思決定・業績管理に関わる管理会計上の重要なテーマについて講義およびPC演習を行います。
教授 松田 千恵子 ⁽¹⁾	経営戦略演習 経営学演習（財務戦略）	企業経営と金融、資本市場の間にある諸問題を研究します。財務戦略、M&A戦略とグループ経営、情報開示と企業統治などを扱い、事業・財務・組織を統合して考えることを目指します。
教授 室田 一雄	経営数理	離散凸解析の理論と応用を中心として、さまざまなシステムの解析に使える普遍的な数理手法の研究をしています。
教授 山下 英明	マネジメント・サイエンスⅡ	数理計画法やモンテカルロ・シミュレーションなどのマネジメント・サイエンスの手法を用いて、経営システムや社会システムの数理モデルを解析します。
准教授 高橋 勅徳	ベンチャービジネス ビジネスイノベーション 演習	ベンチャービジネスを組織論の観点から研究しております。近年は、環境ビジネスとベンチャー企業をテーマにフィールドワークを行い、その成果を教育にも反映しています。
准教授 中山 厚穂	マーケティング・サイエンス	マーケティング・サイエンスの各手法を用いて、消費者の行動を計量化することでマーケティング戦略上の意思決定を行っていくための方法論について研究します。
准教授 西村 孝史	ヒューマン・リソース・マネジメント	働く意欲を高める人事管理や仕事の設計、リーダー育成などを研究しています。最近では、職場での人のつながり（ソーシャル・キャピタル）と人事管理の関係を研究しています。
准教授 松尾 隆	テクノロジー・マネジメント 経営学演習（生産戦略）	製造業、サービス業の保有する技術と持続的競争優位との関係を研究しています。
准教授 水越 康介	マーケティング・マネジメント	企業と市場の相互作用に焦点をあて、関係性構築のマネジメントを研究します。
准教授 森 治憲	統計学基礎	統計学。最近の研究テーマは、近年急速に普及したベイズ法です。特に、事前分布が推定結果に与える影響を研究しています。
准教授 森口 聡子	マネジメント・サイエンスⅠ	最適化理論、特に組合せ最適化、離散凸解析の研究をしています。数理モデルを通じて経営、社会システムにおける実問題の解決法を研究していきます。

(1) 松田教授は、2019年度に研究休暇を取得するため、講義はありません。

Facilities

学習環境

授業開講時間

■ 授業は平日夜間と土曜日に開講していますので、働きながら学ぶことができます。

月～金：5時限 18：20～19：50

6時限 20：00～21：30

土：1時限 10：30～12：00

2時限 13：00～14：30

3時限 14：40～16：10

4時限 16：20～17：50

昼間のファイナンスプログラムとの連動のため、平日の夜間のMBAプログラム講義は、最初の時限を5時限、次の時限を6時限と呼びます。

丸の内サテライトキャンパス

■ 都心からのアクセスが至便で最新の設備が揃っており、授業の受講の他に自習やグループ研究の環境が整っています。

PC教室

■ 定評のある統計解析・数式処理およびデータマイニングのソフトを揃えたPCが準備されており、講義や自習に活用できます。また、日経NEEDS Financial Questなどの企業財務・金融・経済に関するデータベースも利用可能です。

図書室利用

■ 各講義に用いられるテキスト・参考文献を中心とした和洋専門書のほか、国内外の多数のジャーナルが開架されています。本学南大沢キャンパスおよび他大学所蔵の文献についても、ビジネススクールの事務室を通じて、貸出申し込みを行うことができます。図書室や学外からEBSCOhost (Business Source Elite)、ScienceDirect、Wiley Online Library、Web of Scienceなどの各種オンライン・ジャーナルやデータベースが利用可能です。

■ 膨大な学術文献やデータを検索、閲覧、ダウンロードして研究を進めることができます。



講義室 F



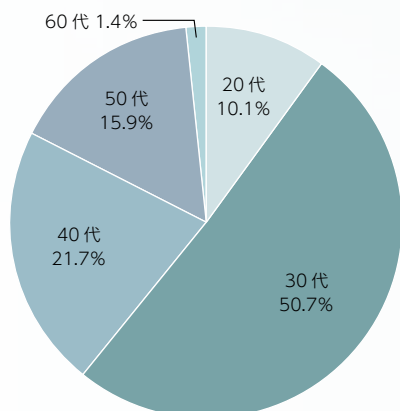
PC教室



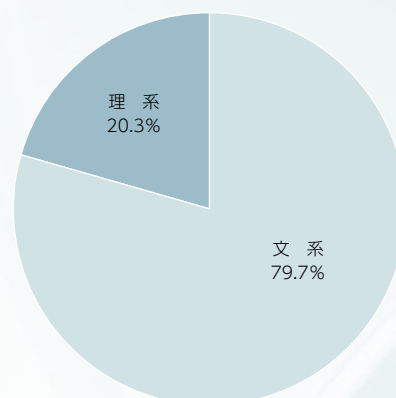
図書コーナー

現役学生の構成（2018年5月現在）

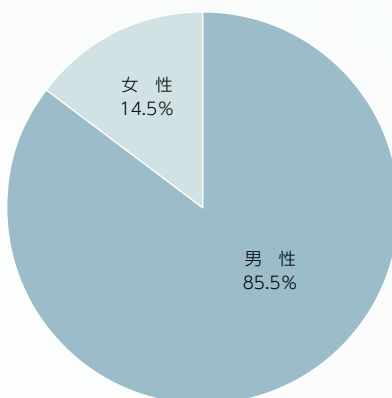
年齢構成



出身大学の文系・理系構成



男女比



MF (Master of Finance) Program

ファイナンスプログラム

首都大学東京大学院社会科学部研究科（2018年度より経営学研究科に改組）経営学専攻は、東京都の成長戦略の一環として、グローバルに活躍できる高度金融専門人材を養成するために、ファイナンスプログラムを2016年度に開設しました。取得できる学位は修士（ファイナンス）（Master of Finance）です。最先端の金融工学を基礎とするファンド・マネージャー、クォンツ・アナリスト、リスク管理者の養成、および事業会社の財務分野でCFOなどのキャリアを目指す方々の教育に重点を置きます。国際水準の教授陣による最先端のカリキュラムを提供し、国際金融都市のアカデミックな拠点を形成していきます。

キャンパスはMBAプログラムならびにMEcプログラムと同じ丸の内サテライトキャンパスで、多くの講義は平日の夜間ならびに土曜日に行われます。履修については相互に乗り入れがあり、MBAの院生も、MFの科目を履修することができます。

MEc (Master of Economics) Program

経済学プログラム

首都大学東京経営学研究科では、2018年度から新たに経済学プログラム（MEc）を開設しました。取得できる学位は修士（経済学）（Master of Economics）です。MEcプログラムでは、近代経済学と歴史からのアプローチに重点を置いており、スタッフの多くは、これまで学術研究に携わり経済学や関連する分野の国際学術誌に論文を発表してきた研究者です。また本プログラムは既に社会人だけではなく、さらに経済学を深く学び探求してみたいと思う大学生にも門戸を開いています。

キャンパスはMBAプログラムならびにMFプログラムと同じ丸の内サテライトキャンパスで、講義は平日の夜間ならびに土曜日に行われます。履修については相互に乗り入れがあり、MBAの院生も、MEcの科目を履修することができます。

Entrance Examination — 入試関連情報 —

詳細については、必ず公式の学生募集要項でご確認ください。

■ 募集定員

経営学専攻：50名（経営学プログラム、ファイナンスプログラム、経済学プログラムの合計）

経営学プログラムでは30名程度を予定しています。募集定員に満たない場合でも入学を許可しないことがあります。

■ 選抜方法

選抜は9月と2月に実施予定。

提出された書類と本研究科で実施する学力試験（筆答試問、口頭試問）の結果により総合的に判断して決定します。

■ 納付金等（予定額）

入学科：東京都の住民…………… 141,000円

その他の者…………… 282,000円

授業料（年額）…………… 520,800円



AccessMap

首都大学東京 丸の内サテライトキャンパス

東京都千代田区丸の内 1-4-1
丸の内永楽ビルディング 18階
TEL. 03-6268-0521



入試関係のお問い合わせ先

首都大学東京管理部 | 文系学務課 経済経営学部教務係

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

TEL.042-677-1111（内線 1715、1716）

入試関連等の情報は、ホームページにて随時更新して参ります。

<https://www.biz.tmu.ac.jp>

スマートフォン・タブレット
の方はコチラから

